



KABANET



Facebook



LINE



Twitter



Blog

暮らしの相談
検索システム

発行日:令和3年7月30日(No.027)

発行所:トヨタ自動車労働組合

発行人:鬼頭 圭介

編集人:井出 悟

印刷所:株・コエンタプライズ共栄カンパニー



財政非常事態宣言を乗り越えるために必要なこと＝「選択と集中」

裾野市長は2021年2月15日、財政非常事態宣言を出しました。地方自治体の財政の原則は「会計年度独立」つまり、その年度の支出は、その年度の収入でまかなうということが大原則となっています。

裾野市は平成21年から12年間もの間、貯金を取り崩しての運営をし続け、「会計年度独立の原則」から目を背け続け、市民にも十分な説明がないまま「財政非常事態宣言」に至っています。

しかし、「会計年度独立の原則」が成り立たない財政運営の理由はとてもシンプルです。それは「支出が多すぎる」ということ、これだけです。では支出を減らすためにはどうすれば良いか、を色々な人たちが考える必要があると思うのですが、これが中々進みません。

行政サービスは無限に湧き出るものではありません。そこで、行政サービスを「必須」なものとして「任意」なものに分類する必要がありますが、それも現時点では市民に示されていません。私はまず必須と任意をしっかりと示して、

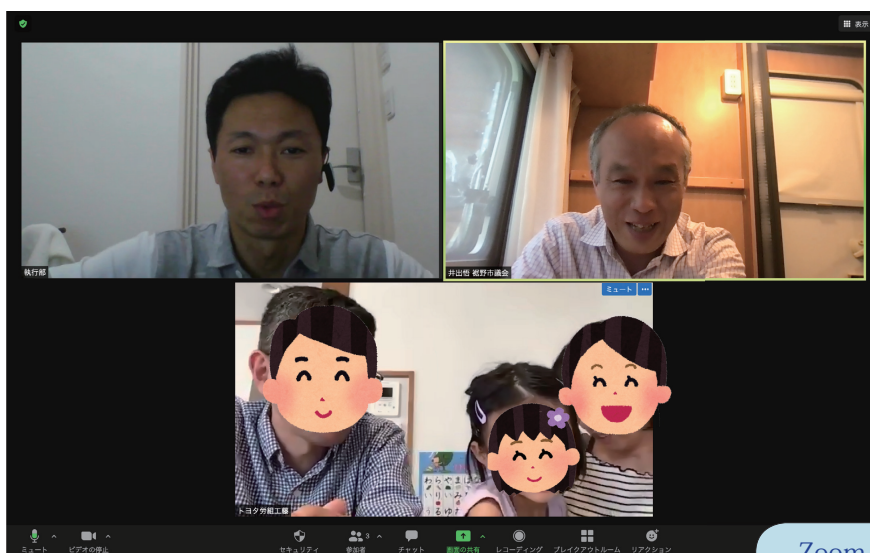
「必須のものはより効率化を追求し」、「任意のものは収入の範囲でどれを選んで、どれを捨てるか」を明確にする必要があります。つまり選択と集中を政治家が示すということが最も重要で、今一番必要なこととなります。

少なくとも、平成21年から12年間もの間「選択と集中」ができなかったということを受け止め、今後、裾野市が取る「選択と集中」について、市民へ正しく丁寧な説明と、早急な改善を図ることが必要です。それが財政非常事態宣言を出した裾野市長の責務です。

当初告知した時期から1ヶ月遅れましたが、2021年8月を目処に、財政非常事態宣言への対応策を取りまとめ議会、市民に公表するとのことです。

財政非常事態宣言の対応策の取りまとめ状況を、議会として毎月確認していますが、進捗が分かり難い状況です。裾野市長が財政非常事態を克服するための「政治判断」を示された時には、皆さまのご意見を賜りながら、議会の判断につなげていきます。

報告① オンライン「暮らしの相談会」はじめました



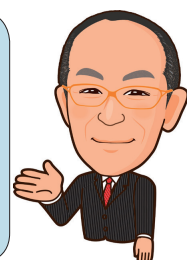
コロナ禍によって、暮らしの相談活動も大きく変わりました。業務連絡はオンラインツールを活用することで、ほとんど困ることがない位まで定着してきました。一方でコミュニケーションの最大化が大きな課題となっています。

そこで今回、初の試みとして組合員のご家族にご協力頂

き、家庭と直接つないで「外に飛び出せ！暮らしの相談トーク！」を開催しました。奥さまからも学校のこと、子育て環境のことなど幅広いテーマでの課題提起を頂き、ご家族を含めたトークの重要性を改めて認識することができました。

ご自宅から直接対話できるので、ご家族もお子さまの様子を見ながらリラックスした雰囲気の中でトークが出来ている様子で、オンラインの強みを活かした新たな活動の可能性を感じました。

Zoomを活用したオンライン暮らしの相談会を、より積極的に取り組みます！ご自宅からご家族と一緒にご参加頂き、ご家族の声もお聞かせ頂けると嬉しいです。お近くの職場役員にお声掛けください！



報告② 一般質問）財政非常事態を乗り越えるための、市長のマネジメントは

2月15日に発出した財政非常事態宣言を乗り越えるためには、①現状把握、②目標設定、③要因解析を見える化することが欠かせませんが、この問題解決手法の入り口は、情報、予算の執行権の全てを持つ市長にしかできません。

市長によって現状把握、目標設定、要因解析が見える化がされないと、市民も、議会も何もできないという事です。「まだ見ぬ答えのない新しい時代」を裾野市が生き抜くためには、行政も自前主義から脱却し、市民や議会も更なる創造性を発揮することが必要であり、創造性を誘発する環境づくりそのものが、市長の最大の役割です。その環境を加速的に実現することこそが「市長のマネジメント」そのものであると考え一般質問しました。

質 財政非常事態宣言に伴う問題解決のためには市長によって現状把握、目標設定、要因解析や見える化を早期に加速していただくことが必要と考えますが、市長のトップマネジメントの考えと、これまでの取組を伺う。

答 今回の財政非常事態宣言下、私は特に問題の原因究明について深く掘り下げるように指示をしている。デジタル、クリエイティブを示す裾野市として、民間の問題解決手法を参考にデータの精度を上げて対応しっかりと進めていきたいと考えている。

質 過去には実質単年度収支の改善に対しては、ソフトランディングで対応するという旨の発言をしている。裾野市の財政状況に余裕が無くなった財政非常事態宣言に伴う、第2弾の行財政構造改革に対する考えは。

答 これまで延期、廃止、休止という、マイナスイメージの言葉が多かったと感じているが、これは言い換えると、選択と集中をさらに強化していくことだと考えている。

「選択と集中の強化」は、「市長が政治家として決める」ということに他なりません。小規模化が加速する学校の統廃合など、既に8年前からわかっていたはずで、繊細な地域課題に対する方向性が示されていないことは、今後の課題解決が更に先送りされる懸念があります。



報告③ 裾野市、長泉町が共同で整備した新しい斎苑「麗峰の丘」がオープン



火葬需要への対応や葬儀の多様化など、時代に適合した施設の整備が急務でしたが、7月2日に新施設がオープンしました。

新施設は鉄筋コンクリート一部鉄骨造り2階建てで、延べ床面積は約2,900平方メートルで、総工費は約19億円となりました。四つの火葬炉を備え、両市町の人口推計を基に、将来、火葬炉を一つ増設できるスペースも設けてあります。

人口減少が進む中、行政運営のコスト削減は喫緊の課題です。裾野市は小中学校、ゴミ処理施設など老朽化が進む大型施設が山積しており、統廃合、広域化を積極的に進めていく必要があります。

これまで以上に、市長の行政境を超えたリーダーシップが必要であり、議会としても広域行政に対し積極的な取り組みを促していく必要があると考えます。

裾野市、長泉町は、これまでそれぞれ火葬施設を運営してきましたが、ともに築 50 年前後が経過し、老朽化が進んでいました。建設・運営コストを削減するため、共同での新施設整備を 2019 年 10 月から市斎場の隣接地で建設工事を進めていました。



(編集後期)

65 歳以上の新型コロナのワクチン接種が粛々と進んでいます。64 歳以下への対象拡大が慎重に進められていますが、接種を望む全市民への完了時期は示されていません。年内いっぱい位掛かってしまうことが想定されます。予防対策を引き続きお願いします。